

カプチーノによるわたあめ提供



育成会主催のゲーム大会



響き渡るアルプホルンの音色



Precious♡Precious
によるパワフルな歌唱



暑い中での
スタッフ準備



盛り上がった大抽選会



安原の
いま

総人口 4,362人 (前年比-75人) 【男 2,081人 女 2,281人】
安原地区公民館 〒390-0802 松本市旭2-11-13 TEL 0263-39-0701

サマーナイトフェスタⅢ安原 開催



本格的な暑さを迎えた7月11日、安原地区恒例のサマーナイトフェスタⅢ安原を開催。来場者数は例年を大幅に超える約400人の地区の皆さまが会場に集まりました。

お楽しみ企画ではアルプホルンとゴスペルの2つの団体にステキな演奏をご披露いただきました。抽選会では、老若男女がチケット片手に自分の当選番号が当たるときをドキドキしながら待っていました。



清楚でかわいらしい花

晩秋に寒肥（油粕・牛糞・化成肥料）を与えます。樹勢が良いので適宜剪定しましょう。乾燥に弱いので10日に1回は水をあげてください。

「朝早く咲くナツツバキ」日本の湿った山地に自生するツバキ科ナツツバキ属の落葉高木で、別名シヤラノキ。初夏に白い花を咲かせます。花の大きさは5〜7cmで、水が少ないと小振りになります。平家物語で沙羅双樹の花が儂さの象徴に例えられていますが、それはこの花が一日花であるからです。黒味がかった斑模様入りの赤褐色の樹皮は成長と共に自然に剥がれ落ち、葉は節ごとに1枚ずつ互い違いに付きます。花が終わると種ができ自然に落ちて増えますが、移植は好みません。種を鉢に撒き小盆栽で楽しむことは可能です。

いちよう並木

親子でわいわい 楽しくピザ作り!

～「笑福ごはん」～

夏休み企画～



笑福ごはん
の夏休み企画

として、7月30日に親子ピザ作り教室が開催されました。笑福ごはんは松本市地域チャレンジ応援事業で認可された安原地区の3団体の1つで、昨年度から簡単・満足をモットーに料理教室を開いています。7月1日には信大生のサークルと協力して本格カリ教室も行いました。

月末は夏休み企画で10人が参加。中にはおばあちゃんに誘われて親子3代での参加者もいて、マルゲリータと子ども向けにじゃがいも・コーンなどのピザの2種類を作りました。

材料の粉類を混ぜてこね、塊になった生地はボウルにたたきつけていきます。年長さんの男の子も一生懸命混ぜていました。男子高校生は「気持ちいい」とはりきってたたきつけ、調理室の中はバシバ

シと大きな音が響きました。年配の方は「粉をこねていると、子どもの時に泥団子を作ったのを思い出すね」と、それぞれに楽しそうでした。

生地は醗酵させてから伸ばしてソースと具材を載せて焼き上げます。調理器具の不具合があつて途中はたばたしましたが、なんとか無事完成。みんなで焼きたてをおいしくいただき、素焼きの生地をお土産に持ち帰りました。

代表の浅井由起子さんによると、「大人の方の粉類は予め袋にまとめておきましたが、



一生懸命こねました

お子さんには1種類ずつ自分で入れて混ぜることを楽しめるように工夫しました。メニューは自分で考えますが、皆さんの要望に応えることもあります」とのこと。参加者は「準備するのは大変だから後かたづけはみんなできやらない」とと和気あいあいと楽しく過ごしていました。



できあがった生地にトッピング

ジモトで 座談会、開催



8月18日、地区の交通問題や学校と地域の交流について闊達な意見交換を行うため、

臥雲市長を中心に、安原地区の各町会長、信大生、信大附属中関係者及び美須々丘高校生徒による座談会が安原地区公民館で開かれました。内容は後日、市ホームページにて公開予定です。

天上の妖精・幻の青いケシを求めて 自馬五竜高山植物園へ

梅雨明け間近な7月16日、日中の猛暑を予感させる蒸し暑さの中、バスは8時30分に安原地区公民館を出発し、総勢17人が、青いケシと涼風を求めて、一路白馬へと向かいました。

昨年、同植物園へは8月に行つたため、すでに青いケシの姿はなく、残念な思いもありました。そのため今年は、リベンジのバスハイイクだった方が多かつたようです。

10時に到着し、高山植物園のマップを手に、意気揚々とゴンドラに乗り込みました。標高1515mの植物園に降り立ってみると、そこには下界と違う爽やかさがありません。

今年は5月以降に高温が続く時期があつたとのこと、花が咲き急ぎ、ピークを過ぎた種類もありましたが、様々な花が一行を出迎えてくれました。ニッコウキスゲ、シモツケソウ、タカネナデシコ、プリムラ、初めて観る白いコマクサに感嘆し、さあ、いよいよ「青いケシ」エリアへ。ありました!「天上の妖精、



標高 1,515 m で記念撮影

幻の青いケシ」その涼やかな水色の花弁を広げ、静かに佇んでいました。花芯はやや濃い青、花弁は目にも涼しげな淡い水色、佇む姿はまさに妖精のようでした。

惜しむらくは、温暖化の影響が少なからず高山植物園にもあり、青いケシ、いわゆるケシ科メコノプシス属の開花のピークが早まつてしまい、今年の青いケシも終盤の姿を観ることにになりました。

とは言え、会いたい花に会えた満足感と、途中2回立ち寄つた道の駅で入手した新鮮野菜を抱え、無事帰途につき

